

# 一級建築士合格体験記

福島県土木部建築指導課 副主任建築技師 清水 学

## 1. はじめに

合格のために語られた勉強法や体験記等は様々にあり、私もそれらに励まされ勉強した一人です。今般、このような機会が与えられましたので、私自身の経験上、効果があったことや失敗から学んだことを簡単ではありますが振り返ることで、今後、受験する方々に少しでもお役に立てれば幸いです。

## 2. 資格取得の意義・動機

一般的に建築といえば建築士という認識があり、その中でも一級は人々の信頼度が高いと思います。本試験は、建築を扱う上で必要な知識を問うものであり、そのライセンスを有することにより、住民の信頼を得て、より安全で安心な居住環境を提供する一助となることができると思っています。

建築を志した時から漠然と資格取得は、必要だと感じていました。日々の仕事をしていくうちに、建築をもっと分かりやすく説明したいという動機は、より強いものとなっていきました。しっかりとした資格取得の動機をもっていないと、試験勉強に対するモチベーションが維持できないというのが実感です。さらに、その動機の強さが資格取得までの期間の長さに影響します。

## 3. 平成23年度試験からみた傾向

一級建築士試験は、「学科の試験」と「設計製図の試験」について行われます。学科の試験は、計画、環境・設備、法規、構造、施工の5科目の四枝択一式試験です。設計製図の試験は、設計課題として、設計条件、敷地及び周辺条件、建築物の構造、階数、面積等、所要室、要求図面の題意に基づいて、6時間半で図面及び計画の要点等の記述を完成させる試験です。

### ■学科の試験

建築士として実務を行っていく上での基本的な事柄に関する理解を問う内容が、多く出題される傾向にあります。例えば、環境・設備の建築設備では、設備の方式や機器の特徴を比較する出題や省エネルギーに関する出題が多く、実務で使える知識として周辺関連事項も含めた正確な理解が求められています。

### ■設計製図の試験

計画の要点等の記述の重要性が増していて、図面と計画の要点の整合性が問

われています。計画の要点は単に図面の補足資料ではなく、図面と同様に重要であることの認識が必要です。例えば、構造計画について、梁伏図により確認できる部材寸法や架構計画に加え、その考え方についても明確であるかという部分を、図面と記述の両面で試されているように、より積極的なプレゼンテーションが求められる傾向にあります。

#### **4. 私の勉強法**

私は、資格学校を活用しました。資格学校は、勉強法等について、いろいろ考えることに時間をかける必要がなく、基本事項を順序立てて合理的に学習を進められますので、与えられた課題をこなすだけで効率のよい学習が進められ、試験勉強のモチベーションを一定に保つことができます。勿論、予習や復習といった受講時間以外の自主学習は必要ですが、仕事が忙しい等、時間をつくることが困難な方に向いていると思います。

以下に、私が実践した勉強について紹介します。

##### **■学科の試験**

試験形式は違うものの勉強法については、多くの方々が経験している受験、定期試験等と共通している部分があると思います。なお、本稿の最後に紹介する本とも共通する部分があり、本にはより詳しく、分かりやすく記述されていますので参考にしてみてください。

##### **短時間を利用した学習**

ちょっとした時間を見つけて、短時間でも継続した勉強を心がけました。短い時間には数値の確認等、比較的時間が確保できる時は構造力学の計算問題等に取り組めるように目的に応じて勉強道具を持ち歩いていました。

##### **苦手分野の克服**

苦手分野を勉強することは誰しも嫌なものですが、ここを克服した方が得意分野の得点をのばすよりも得点アップには効果的です。

##### **メリハリをつけた学習**

学習計画を立案する場合、休みなく勉強するよりも休憩日や調整日も計画に入れてメリハリをつけておくことが効果的です。集中力にも限界はありますし、私の場合、施工のような暗記科目、構造力学のような計算問題及び法令集を使用した法規をローテーションでまわしながら勉強することによって、飽きを解消するようにしていました。

## 過去問を解く

過去問は、自分が間違えた問題のみを解き、正解した問題は次から解かないようにしていました。また、各選択肢を一問一答として解いて理解するようにしていました。一つの選択肢の正誤に自信があった場合、それだけで問題が解けてしまうため、残り3つの選択肢を理解しないまま学習が進んでしまうからです。

## 画像検索の利用

分からない用語等はとりあえず、インターネットで検索してみました。関係あるページからそうではないページまで様々に表示されますが、おおよそイメージがつかめます。特に、実務でも役立つ知識としてイメージをつかむには、画像検索は有効でした。フロー図、図解したものやなかなか見る機会のない現場の写真等を数多く見ることができたからです。

## ■設計製図の試験

第一目標は、答案を完成させることであり、長時間にわたる作業量の多い試験であるため時間配分が最も大切です。各段階で手戻りがないように各段階の進め方、あらかじめ設定しておいた時間配分を体で覚えるようにトレーニングします。

## 答案作成の手順

私の場合、①課題の読み込み（目安15分）→②エスキス（2時間）→チェック（15分）→③計画の要点等の記述（50分）→④作図（3時間）→チェック（10分）と進めていきました。③と④を逆にしている人もいます。自分にあった設計手法を確立することができればよいと思います。

### ① 課題の読み込み

課題のポイントを（1）家具の配置等の図面に反映させなければならない条件、（2）面積、定員人数等の数値、（3）動線およびゾーニングに係る条件、を3色に蛍光ペンで色分けをしながら、2回読み込みます。読み落としや勘違いがないように、エスキス終了時に見直しをしていました。図面を書きあげてから最終の見直し時に気付いても遅いからです。課題の読み込みの段階でイメージをつかめるかが、図面完成までに至る流れをスムーズにするポイントになると思います。

## ② エスキス

エスキスは、動線図の作成→ボリュームの算定→ゾーニング図の作成→柱スパンの決定→所要室の配置決定→床面積の確認→建築計画、構造計画、設備計画について確認する、という流れでタイムスケジュールを決めておきます。実際は課題によって、ある段階を省略したり、逆に時間をかけたりしながら進めます。作図時に迷わず手を止めることがなくなるレベルまで、1/400 スケールのエスキス図を書きます。考えながら作図すると手が止まって、時間を浪費してしまうからです。エスキスには個人差があり、作図に入るエスキスの完成度は人それぞれです。エスキスの熟度が高く、かつ早くエスキスを仕上げるのがなによりですが、時間に限りがあるのでエスキス時間と図面作成時間とのバランスが重要です。私の場合、6時間半から比較的所要時間に変動がないエスキス以外に要する時間（課題の読み込み、計画の要点等の記述、作図、チェックに要する時間）を引いた残りの時間をエスキスに充てていました。

### エスキスのトレーニング

エスキスの分析として、作図図面を部門ごとにゾーニングを色分けして、動線等の確認をしました。他には、他者の図面を多く見ると非常に参考になるため、解説や解答例をじっくり読み込み、自分の図面と比較検討を行いました。また、練習では、エスキス図を2パターン以上作成し、プラン変更に対応できるようにエスキスの幅をひろげておくとよいと思います。

## ③ 計画の要点等の記述

ノートにひたすら例文を書き写して覚えました。図面では表現しにくい説明（例えば、サイン、採光、プライバシー、仕上げ材等の建築計画、構造スリットを設けた等の構造計画、設備機器の機能、設置等に係る設備計画等）を記述できるので、その特徴を活かして、採点者に対して好印象を与えられるとよいと思います。また、ここで問われることは課題のポイントとなることが多いので、読み込み時に頭に入れて考えながらエスキスするとよいでしょう。

## ④ 作図

作図は、手を止めず書き直しができないことが理想です。欲を言えば、作図密度を上げ（植栽、家具等の書き込み）、きれいな印象の良い図面を仕上げることでできればよいと思います。製図試験は、マークシートと違って他者が判断するものですので、常により多くの他者の目にさらし、意見に耳を傾けることが合格への早道です。

## フリーハンドのすすめ

定規を使用してきれいに描いて時間切れになるよりは、ある程度妥協して定規を用いないフリーハンドで描くことにより時間短縮を図るべきです。完成しなければ、未完成と判断され採点の土俵にのれないからです。私の場合、トレーシングで作図時間を縮めるには限界があったため、フリーハンドに頼らざるを得ませんでした。平成23年度「介護老人保健施設」では、平面図が3面要求され、膨大な作図量が求められたことにも起因しています。時間がない場合のフリーハンドで描く部分（トイレ、扉等）をあらかじめ考えておきました。フリーハンドを必要とする部分が増えてくることが予想できたので、解答図面をトレーシングペーパーの上から書き写すことにより、スケール感覚等を体で覚えるようにしました。フリーハンドでも十分きれいに見えるように、日頃から心がけておくとういと思います。また、文字をきれいにみせるために、タイプされた文字をトレーシングペーパーの上からなぞって、計画の要点の記述の練習をしたりしました。

## 5. おわりに

正直、本稿を書いている時が試験及び勉強法についてじっくり考えた時間であったかもしれません。

勉強法については、一級建築士試験が終わってから、今後の資格取得等のためと思って読んだ本（2011年8月より陸前高田市副市長である久保田崇氏著「官僚に学ぶ勉強術」）ですが、非常に分かりやすく、学びのテクニックが紹介されていますので、興味のある方は一度手にとってみてください。

最後に、勉強時間の確保等にご配慮頂きました建築指導課及び建築住宅課の皆様には感謝いたします。